

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104208		
法人名	特定非営利活動法人 ころ和み		
事業所名	グループホーム 豊田 (ハナミズキ館・ひまわり館)		
所在地	〒750-0441 山口県下関市豊田町大字中村7-1	Tel	083-767-0058
自己評価作成日	令和05年09月06日	評価結果市町受理日	令和06年01月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel	093-582-0294
訪問調査日	令和05年09月29日	評価結果確定日	令和05年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当施設では看取りを行っていて、ご家族と入居者様の希望により亡くなられるまでを施設で過ごしていただける。 また、水分・運動・排泄を促し認知症ゼロを目的に開発された支援プログラムを導入しており、一日の水分量と排泄の頻度、運動量を記録に残し、心理症状の軽減を目標に掲げています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>秋桜や彼岸花が美しく咲く自然豊かな環境の中、病院やスーパー、消防署が近い利便性の良い場所にある、定員18名のグループホームである。看護師を2名配置し、PT、OTが定期的に来訪して指導、評価を行っている。また、目の前に提携医療機関があり、定期往診と緊急時の対応等、安心の医療体制が整い、看取りにも取り組んでいる。以前は、「認知症オレンジカフェ」を毎月開催し、近隣の高校から大勢のボランティアが来訪する等、地域交流も盛んであったがコロナ禍の中自粛している。毎月「ほたる通信」を発行して利用者の暮らしぶりを伝えることで家族の安心に繋げ、「ここに入居できて良かった」と、家族からも厚い信頼が寄せられている。20歳代から80歳代の幅広い年齢の職員が、9月に着任したばかりの管理者を支え、理念「笑顔で介護」の実践に、チームで取り組んでいる「グループホーム 豊田」である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は職員の目に入る場所に掲示し常に理念を意識しながら、月に一度会議を開き職員同士話し合いを行い、理念に基づいた実践に繋げている。	「笑顔で介護」の理念の下、「利用者の人格の尊重・自立支援・家庭的なケア・地域と共に」という4つの方針を掲げて見やすい場所に掲示している。職員は、常に目にすることで、それぞれが理念の意義を理解し、利用者本位の介護サービスに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	感染対策を徹底し、近所への散歩やスーパーへの買い物の際、挨拶を交わし地域の方々と共に生活していることえを大切にしている。	コロナ対策以前は、地域の清掃活動への参加や「認知症オレンジカフェ」を毎月開催し、地域交流が盛んであった。近隣の高校生が大勢ボランティアで訪れていたが、コロナ禍の中、自粛している。現在は、コロナ状況を判断しながらスーパーへの買い物や近隣の散歩時に挨拶を交わす等、地域との関わりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年まではコロナウィルスの影響でカフェの開催も中止していたが、出来れば今年度より再開したいと考えている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の狙いや活用の意義について理解し、現状の課題を評価をもとに出し、他職員と話し合いの中で対策など意見を出し合い、具体的な改善に取り組んでいる。	管理者は、職員に評価の意義や目的を説明し、自己評価を職員が記載し、現状や課題を確認している。外部評価結果を職員間で回覧し、評価から明らかになった課題について話し合い、改善に向けて目標達成計画書を作成している。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策を行い運営推進会議を開催している。家族会、行政、他施設、地域の方へ施設の近況報告を行い、参加者からの意見をもとにサービス向上に取り組んでいる。参加されない方の意見書も同様にサービス向上に活かしている。	新型コロナ「5類」移行に伴い、コロナ状況を判断しながら対面式の会議を開催し、家族会代表、自治会会長、民生委員、他施設職員が参加している。ホーム運営や利用者状況、事故、ヒヤリハット等を報告し、各委員からは意見や質問、情報提供を受けて話し合い、ホーム運営や業務改善、利用者の日常介護に反映出来るように取り組んでいる。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	1～2か月に1回、市町村窓口へ訪問や連絡をし、施設状況の報告や相談を行っている。	運営推進会議に行政職員が出席し、ホームの現状を理解してもらい、アドバイスや情報提供を受け、連携を図っている。行政窓口を訪問し、利用状況や事故報告を行い、疑問点や困難事例について相談する等、行政と協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について正しく理解し、全職員に周知し、利用者様一人一人の状況把握に努め、散歩やドライブなどで気分転換を行いながら身体拘束のないケアに努めている。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月毎に開催し、禁止行為の事例を挙げて検証し、日頃のケアの振り返りと、身体拘束についての正しい理解に取り組んでいる。身体拘束の職員研修を定期的に行い、拘束が利用者にならざる弊害を職員一人ひとりが理解し、言葉遣いや薬の抑制も含めた身体拘束をしない、させない介護サービスを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様に対しての言葉使いや態度について考えながら行動している。異常や変化にいち早く気付けるように注意しその都度上司、管理者、施設長に相談し防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が定期的に地域の社会協議会へ訪問し、情報交換や相談を行っている。職員に対して今後研修等の実施を検討する。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書による通知と、相談窓口になる職員名を明記し、相談があれば納得していただけるよう説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの相談・苦情体制は、各ユニットの玄関に設置し周知している。意見等は職員別に入居担当を決め、定期的に状況報告を行いその際に相談を受けるようにしている。	家族面会や電話で、利用者の健康状態や生活の様子を報告し、家族の意見や要望、心配な事を聴き取り、毎月行うモニタリングやカンファレンスの中で話し合い、利用者の日常介護に反映出来るように取り組んでいる。毎月、「ほたる通信」を送付して利用者の暮らしぶりを伝え、家族の安心に繋げている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとに会議を設け、リーダーが職員の意見や聞き取り、その後、全体会議で代表者や管理者に意見を提案できる機会を設けている。また、年2回の人事考課で管理者との面談を行っている。	職員会議は各ユニットで開催し、リーダーが職員の意見や要望、提案等を聴き取り、全体会議でリーダーが報告し、関係者で検討している。年2回人事考課を実施し、自己評価、上司の評価を行っている。管理者が着任したばかりの為、意識してコミュニケーションに努め、職員の思いを聴き取っている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課制度を実施している。その際に、自己評価、上司の評価のすり合わせを行い、次の目標を設定することで、各自が向上心をもって業務に取り組めるように実施している。年度末に社内貢献度に応じて表彰を行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の能力に合わせた外部研修受講への促しや、内部研修の定期開催を行っている。	新型コロナ「5類」移行に伴い、外部研修受講や資格取得について、コロナ状況を判断しながら奨励している。内部研修は年間研修計画を立てて実施し、職員のスキルアップに取り組んでいる。新人職員には、担当職員をつけて現場で実践研修を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルスの影響で交流する機会がなかった。管理者は同地域にある同業者と定期的に連絡を取り、情報交換を行い、感染防止に努めながら交流について検討していく。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安なこと、要望をしっかりと傾聴し、職員間で情報を共有し安心できる生活環境を提供できるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の希望や心配事にもその都度対応し、信頼関係が築けるように努めている。サービスの内容についてはケアマネジャーから、日々のケアについては担当者を決め、良好な関係が築きやすい環境を整えている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャー、看護師、理学療法士、作業療法士と連携をとり、本人に必要な支援を検討し対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯物を干したり掃除をしたり、家事炊飯のできることはして頂きともに支え合う関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度近況報告を行っている。また外出や病院受診などにも協力を仰ぎ本人を共に支えている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策を徹底して面会や電話も活用し関係が途切れないように支援している。美容院等希望に応じて、利用ができるよう配慮している。	コロナ対策のため制限はあるが、予約制で30分以内玄関先での面会をお願いしている。家族や親戚、友人、知人が面会に訪れ、懐かしい顔を見て利用者の表情もほころび、楽しい時間を過ごしている。コロナの状況を見ながら、利用者が長年築いてきた人間関係や地域社会との関わりが、ホーム入居で途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人になっている時はさりげなく職員が間に入り利用者同士の会話の輪に入れるように努めているが決して無理強いせず見守ることもある。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族と連絡を取り様子などを伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情、行動から本人の意向、希望を聴き取り、職員間で共有し、意向に添えるように努めている。	日々の会話の中から、職員は利用者の思いや意向を把握し、職員間で情報を共有し、利用者の日常介護に反映させている。意向表出が困難な利用者には、家族に相談したり職員間で話し合い、職員が利用者寄り添い話しかけ、思いを汲み取る努力をしている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴、生活環境は入所前の情報収集により全職員で共有し、把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に記入し、小さな変化にも対応できるように職員間で共有し現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に意向を聞き、変更がある場合は、関係者で検討し、計画を見直し作成にあたっている。	計画作成担当者は、利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望、心配な事を聴き取り、カンファレンスの中で職員間で話し合い、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。利用者の状態変化に合わせて家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に個別の記録を残し、それを元に定期的に介護計画の見直し、評価を行い実践に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限りニーズに対応し、時にはご家族にも協力して頂き、本人の希望に沿えるように努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの商店に買い物に出向いたり、高校生ボランティアの来設、地域のお祭り行事への参加などの支援をしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に応じて、かかりつけ医を決定している。受診の際は、施設での様子を直接または手紙等で主治医へ情報提供し、適切な医療が提供できる環境を整えている。	利用者や家族の希望を優先してかかりつけ医を決定し、受診は原則家族対応をお願いしている。協力医療機関医師による月2回の往診と緊急時の対応、看護師、介護職員が連携して24時間利用者の健康管理に取り組み、安心の医療体制が整っている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の日々の生活を観察し、いつもと違う様子があれば看護師に相談して方針を決めるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には即座に利用者の情報提供を行っている。また、相談員と定期的に連絡を取り合い、スムーズに退院ができるよう調整している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の意見を踏まえ、家族との話し合いを行い方針を決定している。家族との話し合いで決定した方針を会議で共有し、支援を行っている。	契約時に、重度化や終末期に向けたホームの方針について利用者や家族に説明し、希望を聴き取っている。利用者の重度化が進むと、家族や主治医と話し合って再度意向を確認し、複数配置している看護師と介護職員、協力医と連携しながら看取り支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故防止に備えマニュアル作成し見守り、確認等をこまめに行うように取り組んでいる。	事故を防止のためのマニュアルを作成し、事故発生時の対応や事故を未然に防ぐための取り組みを職員間で話し合っている。コロナ禍の中で感染症対策や感染後の対応などをマニュアル化し、職員一人ひとりが注意して感染症対策に取り組んでいる。利用者の急変時や事故発生時に備えて、応急手当などの初期対応を実践出来るように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等で全職員は手順を把握している。自治会長への連絡を行い協力をお願いしている。	非常災害を想定した避難訓練を昼夜想定で行い、通報装置や消火器の使い方、避難経路、非常口、避難場所を確認し、利用者全員が安全に避難誘導出来る体制を目指している。	災害時に備えて、水や非常食の準備、火事以外にも、水害時に備えた訓練の実施、いざという時の地域との協力体制の構築を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の言葉を否定せず、傾聴することを心掛けている。	利用者のプライバシーを尊重する介護の在り方を職員会議で話し合い、言葉遣いや対応に注意し、排泄や入浴支援では、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護サービスに取り組んでいる。また、利用者の個人情報の保管や職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自分の意見や希望が言えるように同じ目線とリラックスできる環境のもと、自分自身で納得していただけるような支援の提供に努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールの中で本人の意見を尊重しながら過ごしていただいている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選び等、本人の意見を聞きながら選ぶようにしている。汚れなどないように気を付けている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方にはおかずの配膳等手伝っていただき、片付け等も分担して行っている。月に2回、お楽しみご飯の日を設け、利用者様のリクエストによる食事会(調理も実施)している。	朝食は配食業者からの提供を利用し、昼食、夕食は、近所のお店から手作りの食事を配達してもらっている。月に2回、お楽しみご飯の日として、職員が利用者の嗜好を聴きながら一緒に調理している。利用者の能力に応じて、盛り付けや食器洗い、食器拭き、テーブル拭き等を手伝ってもらっている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調、状態に合わせて摂取量、栄養バランス、水分量を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日三回食後に口腔ケアを促し介助が必要な方は職員が介助し行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	こまめな声掛け、トイレ誘導を行いタイミングよくトイレでの排泄ができるよう、可能な限り排泄の失敗が少なくなり、オムツの使用を少なくなるように支援している。	職員は利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、タイミング良く声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。夜間は利用者の希望や体調に配慮して、トイレ誘導やオムツ、リハビリパンツ、パットを使い分け、利用者の自立支援に向けた取り組みと、オムツ使用の軽減に取り組んでいる。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を確認し、排便リズムを把握する。排便間隔があいている方には、こまめな水分補給を促し、毎日の体操や歩行訓練等、一人一人に合った運動方法で便秘の予防に努めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の体調を十分に考慮しながら、ゆっくりと時間をかけ入浴して頂けるよう心掛けている。また、機械浴も導入しており介護度の高い方もゆっくり入浴できる様に支援を行っている。	利用者の希望や体調に配慮しながら、基本的には週2回の入浴を行っている。湯船にゆっくり浸かってもらい、利用者や職員がゆっくり時間をかけて会話できる楽しい入浴支援に取り組んでいる。入浴を拒否される利用者には、時間をずらしたり職員が交代で声掛けし、無理な場合は足浴や清拭に変更する等、無理強いのない入浴支援に取り組んでいる。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調をしっかり把握し、希望に応じて休息していただくように支援し、また、夜間もこまめな巡視を行い、室内温度等の調整を行い質の良い睡眠ができるように心掛けている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表をもとに、誤薬や飲み忘れがないようにチェックを行っている。また薬の副作用等を理解し、経過観察をしっかり行うように徹底している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅での生活の延長戦になるように、一人一人に合った役割と活動の場をできる限り作り、喜びを感じていただける生活にできるよう努めている。	利用者の希望や残存能力を活かして、掃除や洗濯物干し、たたみ、調理、盛り付け、食器拭き等を手伝ってもらい、利用者の活躍できる場面作りに取り組んでいる。新型コロナ「5類」移行に伴い、季節を楽しめる外出行事や高校生との交流の再開等を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策をしっかり行いながら希望を聞き散歩等行うようにしている。季節を体と目で感じられる機会を増やしていけるよう支援に努める。	新型コロナ「5類」移行に伴い、外出レクリエーション(季節毎の花見、買い物、美容院、ドライブ)をコロナ状況を判断しながら、再開していくことを検討している。ホーム周辺の散歩や日光浴を日課とし、少しでも外気に触れて利用者の気分転換が図れるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の状態に合わせ、お金を所持してもらったり、買い物時に持ってもらうようにしたりしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話を掛けたり、本人が書いた手紙と一緒に出しに行く等の支援をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の作品を展示したり、季節の花を飾るなどして季節感を出している。	吹き抜けの天窗や中庭からの採光で室内は明るく開放的である。季節の花や作品を飾ることで、季節感を感じてもらえるよう取り組んでいる。テーブルと椅子、テレビの前にはソファを置いて、利用者が好きな場所で寛げるよう配慮している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のソファで談笑したり、自室でテレビを見たり、体操をしたりと自由に過ごされている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみのある物や、使いやすいものを置く等の配慮をしている。	利用者が長年使い慣れた家具や寝具、テレビ、冷蔵庫、位牌、身の回りの物、家族の写真等を持ち込んでもらい、その人らしい居室となるよう配慮して、利用者が安心して穏やかに暮らせる環境整備に取り組んでいる。室内は清掃が行き届き、清潔で明るい雰囲気のある居室である。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のできることを把握し、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除機かけ、食器洗浄等役割活動が安全にできる環境づくりをしている。		